

平素より大変お世話になっております。
このたび小社では、標記の書籍を刊行する運びとなりましたのでご案内申し上げます。

——悄然とした人心の覚醒の力となればとの想いを募らせ、花を生け続けた
植物と人間社会をめぐるクロニクル 第5弾

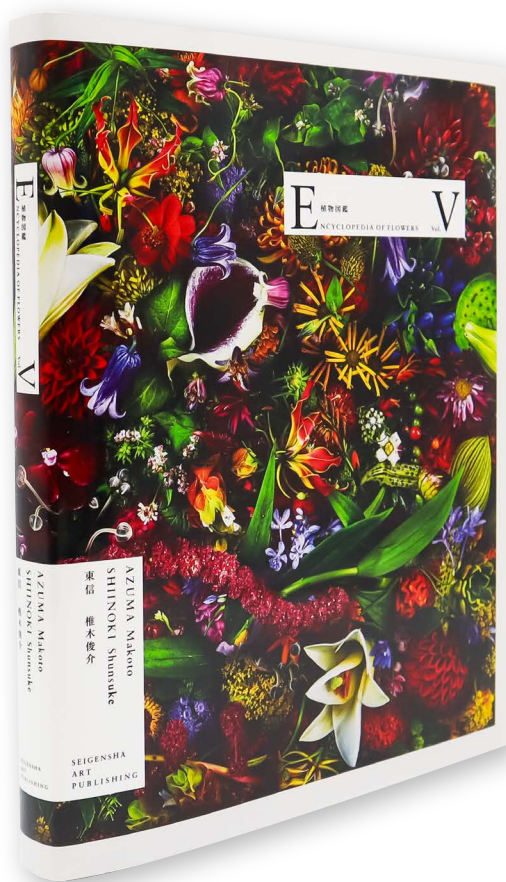
Encyclopedia of Flowers

植物図鑑 第5巻

2019-2021 | 覚醒の力

東信 / 椎木 俊介

株式会社青幻舎は、シリーズ第5弾にて、サイズも内容もリニューアルし、新たな局面を迎えた写真集『植物図鑑 第5巻』を刊行しました。



著者への取材などご要望がございましたら、下記担当までご一報下さい。何卒よろしくお願い申し上げます。

株式会社青幻舎 東京支社

〒135-0047 東京都江東区富岡2-11-18-8F

TEL 03-6262-3420 / FAX 03-6262-3423

広報担当・佐藤 | sato@seigensha.com

■ 書籍概要

花の純粹無垢な美しさに忠実に従い、無私にその姿を留めることに尽くす。
それは、シリーズの原点に立ちかえることであった。

東 信と椎木俊介が10年以上にわたってライフワークとして取り組んできた「植物図鑑」シリーズの第5巻。制作に費やした2年間は、ちょうど人々がパンデミックに苛まれてきた時期と同じくする。その最中に、たまたま伝統的な華道の源流についての本を手に取り、今日、私たちが直面する状況に重なる記述を目にする。室町時代に京都で発生した大飢饉の際に、難民たちに温かい粥を配り、小屋を建てて避難させ、そして悄然とした人々の心を慰め、生きる希望を取り戻してもらうために花を生け続ける僧侶たちがいたというのだ。このエピソードに心を打たれた二人は、今、自分たちにできること、すべきことは、花を生け、人々に供することだと確信し、本書を編んだ。本書では、よりダイナミックに作品を体感できるように、デザインを一新。サイズがひと回り大きくなり、限りなく水平にページが開く製本方法を採用している。



■ 書誌情報

発売：2021年12月19日
書名：植物図鑑 第5巻
著者：東 信
写真：椎木俊介
アートデレクション：原研哉
製本：クータバインディング上製本
判型：A4変形 (H297 × W225 mm)
総頁：288頁
図版数：カラー図版220点以上
植物名リスト付き
定価：4,500円＋税
ISBN：978-4-86152-877-4 C0072

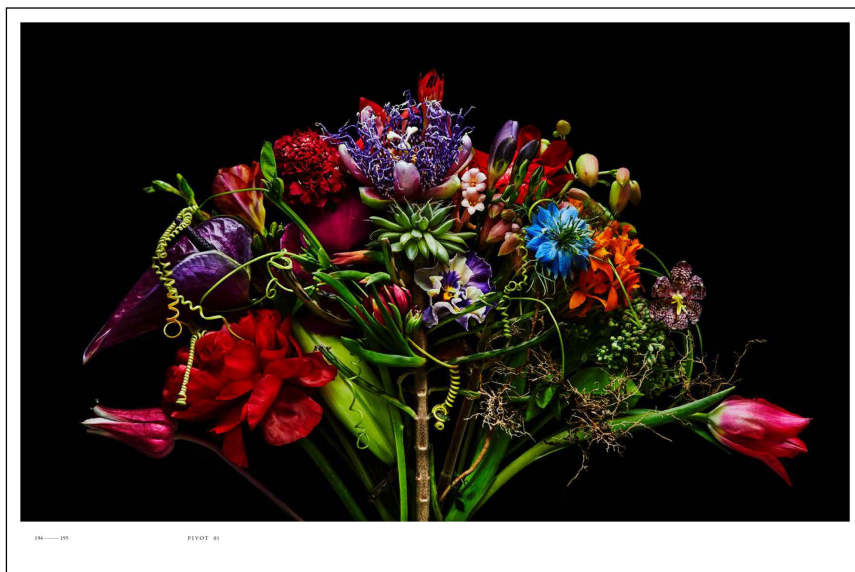
■ 著者プロフィール

東 信 (あずま・まこと)
フラワーアーティスト。ニューヨークでの個展を皮切りに、ヨーロッパを中心に実験的な作品を数多く発表するほか、2009年より実験的植物集団「東信、花樹研究所 (AMKK)」を立ち上げ、世界各地で作品発表を重ねる。独自の視点から植物の美を追求し続けている。

椎木 俊介 (しいのき・しゅんすけ)
ボタニカル・フォトグラファー。東が植物による造形表現をはじめると時期を同じくして、カメラを手にし、刻々と姿かたちを変容させる生命のありようを写真に留める活動に傾倒していく。

■ 本書の中身紹介

受けつがれてきた美のかたち



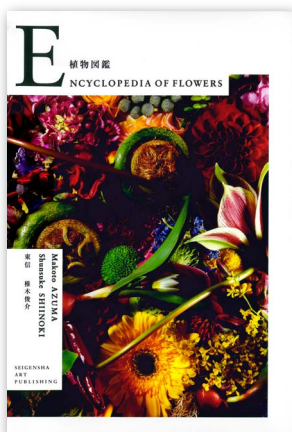
いけばなの源流に敬意の念を表した《IKEBANA》シリーズ、また、要(かなめ)や核を意味する《PIVOT》シリーズは、要となった根元から先に行くほど広がる扇のような形状の作品群だ。扇状は日本では古くから「末広がり」とも呼ばれ、縁起が良いとされてきた。一つの起点からのびのびと枝葉を張りめぐらし、花開く姿に希望を託した。

生命の「共生」の姿



ルーツの異なる花々をフラットに、等価に生けた《WHOLE》シリーズ。どんな高価な植物も、あるいは道端にささやかに咲く花も、その存在価値は等しい。そして、《AUTOGENESIS》シリーズでは、多種多様な植物の共同体が、まるで一つの生命体となって強烈な生気を吐いている。《FLOCK》が意味する「群れ」とは、個体が身を守るために集合体をつくる生存本能のあり方だ。

■ シリーズ紹介



第1巻 世界で活躍するフラワーアーティストの記念碑的作品集、第1弾。

2009-2011

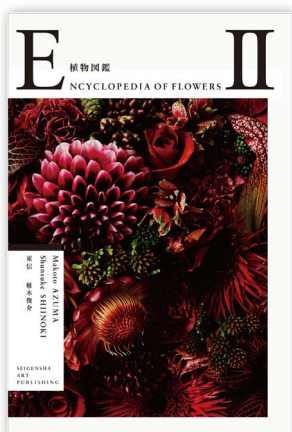
「1万本の花束を本棚へ」

本書は、本という器に生けた花束だ。

匂いもせず、感触もなく、角度を変えて花びらの裏を見ることもできない。

ただ、本棚という森の中で半永久的に咲き続けることができる。

それに耐えうるだけの、見合うだけの命を封じ込めたつもりである。



第2巻 前作を上回る圧巻のボリュームに、新たに挑んだ作品。 ライフワークである本シリーズの真髄をこの一冊に。

2012-2014

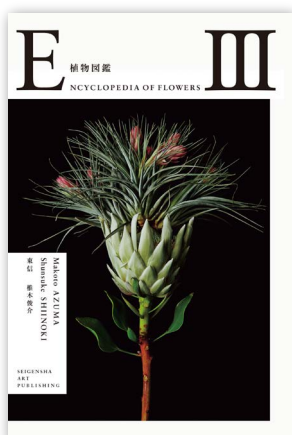
「ここにある花の瞬間を、永遠の未来へ」

前書をもって、一過性の目的が達成されたわけではない。

むしろ終わりのない業のはじまりに過ぎない。

今日もまた、過ぎ去る時間に抗えない果敢なき花の命のドキュメントを継続する。

花々が、何年も、何十年も先にも、この本の中で咲きつづけるように。



第3巻 ——植物の表現には、さらなる未来があるはずだ。 いま、世界中から注目を集めるアーティストの野心と渾身の一冊。

2015-2016

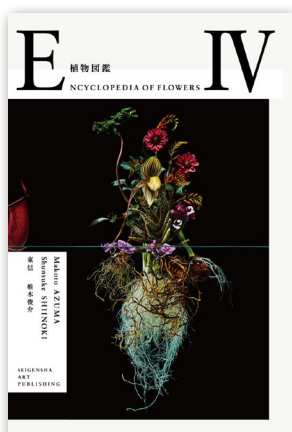
「花を生け続け、まだ見ぬ地平へ」

わたしたちの活動は五大陸ばかりか、生態系すら飛び出し成層圏まで至った。

本シリーズは、もはや世界のランドスケープ、

強いていえば地球ものとも借景に取り込んだプロジェクトに昇華しつつある。

さらにこの先も、植物が魅せる新たなランドスケープを目にすることになるだろう。



第4巻 「植物図鑑」シリーズ開始から10年。 年月を経てたどり着いた圧巻の境地。

2017-2018

シリーズ開始から10年。年月を経てたどり着いた圧巻の境地。

人間は原始時代から花を他者に捧げる夕刊があり、それは今日でも変わらない習慣だ。

国や民族、宗教が異なっても、人が花を捧げる尊い行為の変わりない。

だから、すべての人々に花を捧げつつける。